

フリガナ
氏 名

説明担当者名： _____

生年月日
年令性別

説明日 _____ 年 _____ 月 _____ 日

〈MRI 検査を受ける方へ〉

MRI 検査の途中で医師の判断により造影剤を使用する場合がありますので、事前に造影 MRI に関する概要をご説明いたします。『造影剤の必要性』と『合併症の可能性』をご考慮のうえ、造影剤の投与にご同意頂ける方は、別紙の造影検査同意書にご署名下さい。

また、造影検査同意書にご署名いただいた後でも、いつでも同意を撤回することができます。

1. 造影剤について

MRI の造影剤とは、常磁性金属イオンを安定化させた薬剤で、信号を増強することにより組織のコントラストを増す働きをします。血管に注射して血管やいろいろな臓器を見やすくする薬です。腫瘍などの病巣も染まってわかりやすくなったり、染まりの具合から病気の性質が判定できたりします。健康な方での血中半減期は 2 時間程度です。

2. 造影剤の副作用・合併症について

一般に造影剤の副作用は注入直後から数分以内に発生することが多く、その頻度は 1.2%程度と報告されています。この頻度は CT や尿路造影、血管造影に使われるヨード造影剤に比べると半分以下です。この副作用の多くは、かゆみやじんま疹、嘔気といった軽度のもので治療を必要としません。まれにショック・アナフィラキシー様症状などの重篤な副作用も出現しますが、35 万～45 万人に 1 人と報告されています。また極めて稀に（200 万人に 1 人）重篤なショックにより死亡する報告もあります。重篤な副作用の場合は後遺症の残る可能性もあり、入院での治療を必要とすることがあります。

3. 緊急時の対応について

上記の副作用や合併症が生じた場合の対応については、医師や看護師が適宜対応させていただきます。MRI 検査室には対応に必要な医薬品や救急用の設備も用意してあります。場合によっては入院が必要となることもあります。

4. 検査前に教えていただきたいこと

現在のところ、上記の副作用の発現について予測する確実な方法はありません。ただし副作用発現の危険因子として造影剤副作用歴、アレルギー歴（特に喘息）、心疾患、腎臓機能低下などがあげられています。これらに該当する方あるいは当日の体調の悪い方は検査室でお申し出下さい。検討の上、医師が造影剤使用の可否を決めさせていただきます。

5. 検査後の生活について

普段の生活で特に水分の制限をされていない方は、造影検査終了後、いつもより多めの水分摂取を心がけて下さい。食事に関しても通常通りの食事をされて結構です。

万一、検査終了後、時間が経ってから体調の変化が生じた場合は、看護師または下記までご連絡下さい。その際は『いつ、何科で、どこの造影検査を受けた』とお伝えいただき、お手元に ID 番号がわかるものをご用意下さい。場合によっては診察が必要な場合があります。

この『説明書』はご本人が保管して下さい。別紙の『造影剤同意書は』必要事項をご記入の上、説明担当者へお渡し下さい。なお、検査当日に体調の悪い方は、MR 室担当者へお申し出下さい。